

校長ブログ No.3	つながり	2024年4月25日 発行者 大阪市立田辺中学校 校長 井寄 芳春
-----------------------------	-------------	--

読書への挑戦 —「こどもの読書週間」を迎えて—

桜の季節も終わり、新緑がまぶしい季節となりました。

さて、今日は「読書への挑戦」というお話をします。

4月23日(火)からゴールデンウィークをはさんで5月12日(日)の3週間は、「こどもの読書週間」です。こどもの読書週間は、1959年、(昭和34年)から始まり、今年は第66回となりました。こどもの読書活動についての関心や理解を深めることを目的としています。

田辺中学校では、「朝の読書」に取り組んでいます。先日も、1年生の教室をのぞくと、しんと静まりかえった教室で、みんな熱心に本を読んでいた。授業が始まる前に、10分程度の時間でも、本を読むことは、勉強に向かうためのスイッチを入れることにもなり、集中力も高めてくれると思います。

一冊の本との出会いが、自分の夢や人生に影響を与えることもあります。一行読めば一行の、一ページ読めば一ページの、一冊読めば一冊の「体験」となります。本を読むことは、自分の世界を広げることになります。また、文章や活字を通して、内容を深く理解することは、学びの基礎になります。読書について、私から、みなさんに提案したいことを二つあげたいと思います。

一つ目は、「先を急がず、立ち止まってゆっくりと読んでみよう」ということです。

ゆっくりと、丁寧に、考えながら読むことは「対話」することともいえます。主人公との対話、作者との対話、そして、自分との対話にもなるでしょう。読んだ本の内容について、誰かに話すことは、他者との対話にもなります。情報がたくさんあふれている時代だからこそ、読むペースが遅くなくてもかまわないので、自分の考えを深め、広げながら、じっくりと読み進めましょう。

二つ目は、「さまざまなジャンルの本を読んでみよう」ということです。

朝の読書活動では自分の好きな本、読みたい本を選んで持ってきています。もちろん、それで結構です。でも、時には、今までとはちがったジャンルの本のページをめくることもいいと思います。図書館の本の背表紙を眺めてみて、ふと気持ちが動いた本やおもしろそうだなと思う本を手にとって目次を見たり、最初の1ページを読んだりしてもいいと思います。

本校の図書館では、「1万三千冊」の本がみなさんとの出会いを待っています。今年のこどもの読書週間の標語は「ひらいてワクワク めくってドキドキ」です。「ワクワク」「ドキドキ」する本との出会いがあることを願っています。

※全校集会での講話の内容に加筆・修正しています。

